

小牧の昆虫

<蝶と蛾のなかま>

小牧市自然環境観察人

はじめに

小牧市自然環境観察人制度は市内の自然環境を保全・調査することを目的に平成19年度から始まりました。その主な事業として①身近な動植物調査、②自然環境の保全に関する意識向上及び知識普及活動があります。具体的な取り組みとして①児の森定期観察、市内小学校の水生物調査への協力、②市内児童クラブでの自然環境学習講座の開催、市民環境講座への協力、環境フェア展示物発表などを行っています。

令和3年度には「大山川散策マップ」を作成し、市内を流れる大山川の自然や見どころを紹介しました。小牧市内の自然の記録を残したいとの思いから、2023年に「小牧の野鳥」、2024年に「小牧の巨木」についてまとめました。そこで今度は「小牧の昆虫」についてまとめることになりましたが、昆虫類は種の数が多いため今年度は「蝶と蛾のなかま」にしぼりまとめました。20名あまりの観察人が市内の限られた観察場所の記録や写真を持ち寄り作成したものになります。

日本に生息する蝶は300種超、そのうちの60種を小牧市とその周辺で確認することができました。蛾の仲間は蝶よりも多いですが、昼間の観察時に出会った幼虫を含めて記載しました。なお、蝶の中には特定外来生物もいました。今後、継続して観察していくと新たな蝶や蛾も出てくると思います。今回はデジタルデータなのでスマホやタブレットなどで観察に役立てていただけたと思います。

2026年2月

小牧市自然環境観察人

ダイミョウセセリ<セセリチョウ科>



前翅長 15~21 mm

- ふれあいの森、兒の森
- 九州以北に分布し黒地に白帯のあるセセリチョウ。関東型と関西型があり滋賀県・福井県が境界となり、小牧は後翅の白帯を欠く関東型である。
- 4月~10月に出現し、食草はヤマイモ科である。

コチャバネセセリ<セセリチョウ科>



前翅長 14~19 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 九州以北に分布し翅の裏面は、くすんだ黄褐色で黒い筋がある。ササの生えている林の周辺でよく見られる。ハエのように直線的に飛び、いろいろな花で吸蜜する。地上で吸水したり、動物の糞にやってくることもある。
- 5月~9月に出現し、食草はササやタケの仲間。

キマダラセセリ<セセリチョウ科>



前翅長 13~17 mm

- 小牧山、ふれあいの森
- 九州以北に分布し褐色と黄色の粗いまだら模様の子セセリチョウ。原っぱや河原、林の周辺などで見られる。弾丸のように敏速に飛び、いろいろな花で吸蜜する。地上で吸水することもある。
- 6月~9月に出現し、食草はイネ科植物である。

オオチャバネセセリ<セセリチョウ科>



前翅長 16~21 mm

- ふれあいの森
- 関東以西の沖縄まで分布し茶色いセセリチョウ。イチモンジセセリに似るが、後ばねの白紋が一直線ではなく少しガタガタしていることで見分けられる。
- 6月~10月に出現し、幼虫はササ・タケ類や、ススキなどのイネ科植物を食べる。

チャバネセセリ<セセリチョウ科>



前翅長 13~21 mm

- 小牧山、ふれあいの森
- 関東以西の沖縄まで分布し茶色いセセリチョウ。イチモンジセセリに似るが、後ばねの白紋は小さくて目立たず、またイチモンジセセリのように一直線状にはならない。草地や公園・田畑など開けた場所で見られ、花で吸蜜することが多い。夏の終わりから秋にかけて個体数が増える。
- 5月~11月に出現し、食草はイネ科やカヤツリグサ科である。

イチモンジセセリ<セセリチョウ科>



前翅長 15~21 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 関東以西、沖縄まで分布し茶色く後翅に白い斑点がつながった一文字模様を持つ。都会の真ん中から高原に至るまで様々な環境で見られる普通種。他のセセリチョウと同様、チョウにしては胴体が太く色合いも地味なので、しばしばガの仲間と間違われている。南方系のチョウで、夏から秋にかけて分布を北に広げる。西南日本でも晩夏から秋にかけて個体数が増える。
- 5月~11月に出現し、食草はイネ科植物である。

ギフチョウ<アゲハチョウ科>



前翅長 27~36 mm

- 兒の森
- 本州に分布し黄と黒のしま模様が目立つ、原始的なアゲハチョウの仲間。年1回、4月頃のみ現れ「春の女神」と呼ばれる。スマレ、カタクリなどの花で吸蜜する。晴れた風の弱い日の午前中に飛ぶことが多い。近年は生息地が減っていて、限られた場所ではしか見ることができない。
- 3月~5月に出現し、食草はカンアオイ類やウスバサイシンなど。

ジャコウアゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 42~60 mm

- 市民四季の森、小牧山
- 本州以南の八重山まで分布しオスは黒色、メスは黄灰色のアゲハチョウ。胴体に、黄色~赤色の毛を持つ。広い地域に分布するが、見られる場所は、幼虫の食草であるウマノズクサの生えている草原やその周辺に限定される。ほかのアゲハチョウの仲間にくらべると、あまりはばたかずにゆったりと飛ぶ。幼虫も成虫も体内に食草由来のアルカロイド系毒物質をもち、鳥などに食べられるのを防いでいる。
- 4月~10月に出現し、食草はウマノズクサである。

カラスアゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 45~80 mm

- 小牧山、ふれあいの森、兒の森
- 日本全土に分布し黒っぽく、はねの表が緑色～青色に輝いて見える美しいアゲハチョウ。輝きの強さは、見る角度によって微妙に変化する。都会には少なく、郊外でよく見られる。山道の湿った地面で吸水していることが多い。また、ツツジなどの花でよく吸蜜する。
- 4月～9月に出現し、食草はコクサギ、サンショウ、キハダなどである。

モンキアゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 50~75 mm

- ふれあいの森、兒の森、小牧山
- 関東以西、沖縄まで分布し真っ黒で、後翅の白い紋が目立つ、大きなアゲハチョウ。林の周辺をゆったりと飛び、花で吸蜜したり、地面で吸水したりする。発生する個体数は多くなく吸蜜する花がないと目の前を飛び去っていく。南方系で、西南日本に多い。
- 4月～10月に出現し、食草はカラスザンショウなどである。

ミヤマカラスアゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 38~75 mm

- 兒の森
- 北海道~九州まで分布し青緑色に輝く、美しいアゲハチョウ。カラスアゲハに似るが、色彩が鮮やかで美しく、前翅の白っぽく輝く線や後翅の裏面に白い帯があることで見分けられる。山地性で、緑深い山奥の溪流沿いなどで見られる。アザミなどの花で吸蜜したり、地面で吸水していることが多い。
- 4月~9月に出現し、食草はキハダ、カラスザンショウなどである。

キアゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 36~70 mm

- 小牧山
- 北海道~九州まで分布し黄色っぽいアゲハチョウ。前翅の付け根が黒くなっていることで、普通のアゲハと見分けることができる。都会の真ん中で見ることは少ないが、少し郊外へ出れば、明るい草原で花を求めて飛び回っているのをよく見かける。
幼虫は
- 3月~11月に出現し、幼虫はセリのほか、ニンジン、パセリ、ミツバなど野菜の葉も食べるので害虫扱いされる。

ナガサキアゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 60~80 mm

- 小牧山、ふれあいの森
- 本州～沖縄まで分布し尾錠突起を持たない大きなアゲハチョウ。オスは黒一色、メスは前翅の基部が赤色で後翅に白色紋がある。白色紋は、南下するにつれて発達する。ゆるやかに飛び、いろいろな花で吸蜜する。市街地でも見られる。南方系の蝶だが、近年、分布を北に拡げており、関東地方や北陸南部にまで進出している。
- 5月～9月に出現し、食草はユズやキンカンなどミカン科をよく食べる。

クロアゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 45~70 mm

- 小牧山、ふれあいの森
- 本州～沖縄まで分布する黒っぽい大きなアゲハチョウ。樹木が茂ったところなど、やや暗い場所をフワフワゆったりと飛ぶ。街なかから山地まで黒いアゲハ類では一番普通に見られる。他のアゲハと同じようにツツジやヒガンバナで吸蜜し、湿った地面で吸水もする。
- 4月～9月に出現し、食草はミカンやカラタチなどである。

アゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 35~60 mm

○ 小牧山

○ 北海道~沖縄まで分布するもっともなじみ深いチョウ。街中から山地まで様々な環境で見ることができる。あまりに普通種すぎて見過ごしがちだが、はねのデザインはとても美しい。アゲハチョウ、ナミアゲハとも呼びます。

庭にミカンやキンカン、ユズなどがあれば卵を産んでいく。

○ 3月~11月に出現し、食草はミカンやカラタチなどである。

ミカドアゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 40~50 mm

○ 小牧山

○ 南方系のチョウで本州（愛知県以西）~沖縄まで分布する黒地に、青白色の斑紋状の帯が何本もある美しいアゲハチョウ。国指定特別天然記念物（高知市生息地）。天然記念物（三重県玉城町、山口県萩市、高知県室戸市、大分県）になっている地域もある。

○ 愛知県周辺では年1回（5~6月）発生だが、南下に従い2回~3回発生する。食草はオガタマノキ、タイサンボクなどである。

アオスジアゲハ<アゲハチョウ科>



前翅長 32~45 mm

- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森
- 本州から沖縄まで分布する南方系のチョウで西南日本では普通種。本州中部以北ではあまり多くなく、秋田県あたりが北限となる。黒地に青白い筋が一本入ったアゲハチョウ。ミカドアゲハに比べ青白色の筋が少ない。飛翔力が高く、早いスピードで、樹木や花のまわりをめまぐるしく飛び回る。
- 5月~9月に出現し、食草はタブノキヤクスノキなどである。

ツマグロキチョウ<シロチョウ科>



前翅長 16~22 mm

- ふれあいの森
- 福島県以西の本州から九州まで分布し、黄色く後翅に不明瞭な暗褐色の筋があるチョウ。前翅の表面の縁（つま）には黒色帯がある。秋に発生する秋型は前翅の先端が尖る。河原の草地などで見られるが、近年は減少が著しい。愛知県では準絶滅危惧種に指定されている。
- 3月~11月に出現し、食草はマメ科のカワラケツメイや外来種のアレチケツメイなどである。

キタキチョウ<シロチョウ科>



前翅長 18~27 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 本州から九州まで分布し、林縁や草原で普通に見られる黄色いチョウ。翅の表面の縁には黒色帯がある。モンシロチョウやモンキチョウよりはひとまわり小さい。いつもせわしなく飛び、いろいろな花で吸蜜したり、地面で吸水する。成虫のまま越冬し、早春から飛びはじめるので、3月頃に見かける黄色いチョウはこの種類であることが多い。
- 3月~11月に出現し、食草はネムノキ、ハギ類などである。

モンキチョウ<シロチョウ科>



前翅長 22~33 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 本州から沖縄まで分布し、原っぱ、公園、河原など開けた環境に広く生息する黄色いチョウ。メスには白いタイプもいる。大きさはモンシロチョウとほぼ同じ。活発に飛び、いろいろな花で吸蜜する。早春から晩秋まで見られる。
- 3月~11月に出現し、食草はアカツメクサ、シロツメクサなどである。

ツマキチョウ<シロチョウ科>



前翅長 20~30 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 北海道から九州まで分布し、年1回、春にだけ現れる白いチョウ。モンシロチョウよりもやや小さい。前翅の先端がオレンジ色なのがオス、白なのがメス。後翅の裏は編目模様になっており、枯草の中にとまると見つけにくい。林縁の開けた場所に多い。
- 3月~5月に出現し、食草はハタザオの仲間、イヌガラシ、ナズナなどである。

モンシロチョウ<シロチョウ科>



前翅長 20~30 mm

- ふれあいの森、小牧山、市民四季の森
- 北海道から沖縄まで分布し、野原や畑でふつうに見られる白いチョウ。いろいろな花で吸蜜する。幼虫の食草であるキャベツ畑やアブラナ畑に多く、葉っぱを注意深く捜せば、卵や幼虫も簡単に見つけることができる。近縁のモンキチョウの白色型のメスと見間違ふことがある。
- 3月~11月に出現し、食草はキャベツ、アブラナなどである。

ウラギンシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 19~27 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 本州から沖縄まで分布し、翅の裏面が銀色のチョウ。表面はオスが濃茶色地に朱色の紋、メスは濃茶色地に水色の紋を持つ。翅の先端がとがっており、秋型の方が鋭くとがる。飛ぶと、翅の裏の銀色がチラチラと目立つ。林と草原の境目あたりを活発に飛ぶ。成虫で越冬する。
- 3~4月は成虫越冬。6~10月に出現し、食草はフジ、クズなどの花やつぼみを食べる。獣糞に来ることもある。

ムラサキシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 14~22 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 本州から沖縄まで分布し、翅の表が青紫色に輝くシジミチョウ。翅の裏面はシミが浮かんだような茶色。前翅の先がややとがっているのが特徴的。シイやカシの木の周辺で見られ、枝葉にまとわりつくように飛ぶ。成虫で越冬する。
- 3~4月は成虫越冬。6~10月に出現し、食樹はカシ類。

ウラゴマダラシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 17~25 mm

- ふれあいの森、太良池
- 北海道から九州まで分布し、翅の裏は灰白色で、縁に沿って2列の黒紋列がある、やや大型のシジミチョウ。翅の表は暗褐色で紫青色の大きな紋がある。イボタやクリなどの花に来て吸蜜することが多い。幼虫はイボタ類の葉を食べ、成虫もイボタ類が自生する近くで見られる。
- 5~6月に出現し、食樹はイボタ類。

ミズイロオナガシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 11~18 mm

- ふれあいの森、太良池
- 北海道から九州まで分布し、翅の裏面は灰白色で、後翅のVサイン模様と長い尾状突起が目立つシジミチョウ。翅の表面は暗い灰色。コナラやクスギの多い雑木林で見られる。日中は不活発で夕方になると、活発に活動する。
- 6月に出現し、食樹はアベマキ、コナラなど。

アカシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 16~22 mm

- ふれあいの森、兒の森
- 北海道から九州まで分布し、オレンジがかった赤色の翅を持つシジミチョウ。コナラやアベマキの多い雑木林で見られる。昼間は木の葉にじっととまって不活発であるが、夕方になると樹木の周辺を活発に飛び始める。飛んでいると、ウラナミアカシジミと見分けが付きにくい。
- 5~6月に出現し、食樹はアベマキ、コナラなど。

ウラナミアカシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 16~22 mm

- ふれあいの森、兒の森
- 北海道、本州、四国に分布し、翅の裏がオレンジと黒のきれいな縞模様になったシジミチョウ。翅の表はオレンジ色で、縁が黒くなっている。平地、低山地の雑木林で見られる。日中は不活発で、夕方になると樹木のまわりを活発に飛び回る。幼虫はコナラ、アベマキなどを食べ。成虫も食樹の周辺にいる。飛んでいると、ウラナミアカシジミと見分けが付きにくい。
- 6月に出現し、食樹はアベマキ、コナラなど。

トラフシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 16~21 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 北海道、本州、四国に分布し、濃茶色に白いストライプが入ったシジミチョウ。羽根の表面はコバルトブルー。前翅の先端はやや尖っている。4~5月に出現する春型は、白のストライプが鮮やかだが、6~8月に出現する夏型は、模様がはっきりしない。林縁を素早く飛ぶが、長時間飛び続けることは少なく、すぐに葉上にとまる。
- 3月~8月に出現し、食草はフジ、クズなどの花やつぼみを食べる。

コツバメ<シジミチョウ科>



前翅長 11~16 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 北海道~九州に分布し、小さな茶色いシジミチョウ。胴体は毛深い。雑木林の周辺に生息し敏速に飛ぶ。小さいうえに翅の色が、落葉や樹木にまぎれるので見失いやすい。長く飛び続けることはなく、すぐに草や地面にとまる。春の日差しを十分に受けるために、太陽に向けて体を倒していることが多い。
- 3月~4月に出現し、食草はツツジ類などの花やつぼみを食べる。

ベニシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 13~19 mm

- ふれあいの森、小牧山、市民四季の森
- 北海道、本州、四国に分布し、前翅は表裏とも赤地に黒褐色点があり、後翅は表面が黒褐色で、裏面は灰色のシジミチョウ。春型は赤っぽく、夏型は黒っぽい。秋型は両方のタイプが見られる。原っぱや畑の周辺など、開けた明るい環境に多い。地面近くを飛び、いろいろな花でよく吸蜜する。
- 3月~11月に出現し、食草はスイバ、ギシギシなど。

ウラナシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 13~18 mm

- ふれあいの森、小牧山、市民四季の森
- 本州~沖縄に分布し、翅の裏面に、茶色と白色の細かい波模様のあるシジミチョウ。翅の表面は弱い光沢のある薄青色。草地や畑の上を活発に飛び、いろいろな花で吸蜜する。南方系のチョウで夏から秋にかけて分布をどんどん北に広げる。しかし、暖地を除いては越冬することができず、冬の訪れとともに死に絶えてしまう
- 7月~11月に出現し、食草はマメ科植物の花や若い果実を食べる。

ヤマトシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 9~16 mm

- ふれあいの森、小牧山、市民四季の森
- 本州~沖縄に分布し、人家周辺でよく見られる小さなシジミチョウ。翅の表面は水色で、裏面には灰色地に黒い斑紋がある。幼虫の食草であるカタバミの周辺を、地面すれすれに飛んでいることが多い。カタバミはコンクリートの裂け目にも生える強い植物だが、このチョウもカタバミさえあれば、都会の真ん中ででも発生している
- 3月~11月に出現し、食草はカタバミ。

ツバメシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 9~19 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 本州に分布し、明るい原っぱで普通に見られる小さな白っぽいチョウ。後翅裏面には、オレンジ色の紋を持つ。翅の表はオスが青紫色、メスが黒色。後翅にある尾状突起にちなんで「ツバメ」の名がついた。地面近くを飛び、いろいろな花で吸蜜したり地面で吸水する。
- 3月~5月に出現し、食草はシロツメクサ、コマツナギなどのマメ科植物。

ルリシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 12~19 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、林の周囲をせわしなく飛ぶ、白っぽいシジミチョウ。翅の表面は水色~明るい青紫色。地面で吸水したり花で吸蜜することが多い。各地に広く分布し個体数が多く、出現期も春先から晩秋までと長いので見かける機会が多い。
- 3月~11月に出現し、食草はマメ科、ミズキ科、バラ科など。

ムシャクロツバメシジミ<シジミチョウ科>



前翅長 20~25 mm

- ふれあいの森
- 中国や台湾から流入した外来種。2013年に愛知県名古屋市の河川敷で初めて生息が確認。2016年には福岡県福岡市でも発見され生息域が広がりつつある。幼虫が食べるベンケイソウ科の園芸植物が中国や台湾から輸入されたのに合わせ侵入したと思われる。
- 春から秋まで出現し、食草はベンケイソウ科植物のツルマンネングサなど。

テングチョウ<タテハチョウ科>



前翅長 19~29 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 本州~沖縄に分布し、天狗のように顔の先がとがっている茶色っぽいチョウ。羽根の表面にはオレンジ色の紋がある。鼻のように見えるのは、下唇ひげ（パルピ）という部分。よく飛び回るが、すぐに地面にとまる。成虫のまま越冬し、早春から飛びはじめる。幼虫の食草はエノキなど。
- 3月~6月は成虫越冬、9月~11月に出現し、食草はエノキなど。

アサギマダラ<タテハチョウ科>



前翅長 43~65 mm

- 市民四季の森、ふれあいの森、小牧山
- 本州~沖縄に分布し、濃茶色地に青白い斑紋がある大きなチョウ。斑紋部分は半透明。胴体もまだら模様になっている。初夏から発生するが、晩夏から秋にかけて見る機会が多くなる。あまり羽ばたかずにふわふわと優雅に飛ぶ。移動性が強く、マーキング調査では数百キロも離れた場所で発見されることもある。成虫の蝶はフジバカマやヒヨドリバナで吸蜜する。
- 4月~10月に出現し、食草はキジョランなどガガイモ科の植物。

ミドリヒョウモン<タテハチョウ科>



前翅長 31~40 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 北海道~九州に分布し、他のヒョウモン類と比べオレンジ色の鮮やかさがやや少ないヒョウモンチョウ。後翅の裏面に白と黄緑色の帯がある。ヒョウモンチョウ類の中では分布がもっとも広く、都市郊外から深山までいたるところで見られる。
- 5月~6月、9月~10月に出現し、食草はスミレ類。

ウラギンヒョウモン<タテハチョウ科>



前翅長 27~36 mm

- 兒の森
- 北海道~九州に分布し、山麓や明るい草原で多く見られるヒョウモンチョウ。後翅の裏面には白紋が多く、他のヒョウモン類にくらべて白っぽく見える。6月頃あらわれるが、真夏には一度姿を消し9月頃再び活動する。
- 6月、9月~10月に出現し、食草はスミレ類。

ツマグロヒョウモン<タテハチョウ科>



前翅長 27~38 mm

- 小牧山、ふれあいの森、市民四季の森
- 本州~沖縄に分布し、野原や公園などに広く生息し、都市周辺ではヒョウモンチョウの中で最も見る機会が多い。南方系のチョウだが、幼虫がパンジーなどスミレ類を食べることから園芸植物にまぎれて広がった。また、地球の温暖化もこのチョウの隆盛に一役買っている。前翅のへりが黒くなったメスで、オスは黒くならない
- 4月~11月に出現し、食草はパンジーなどスミレ類。

アサマイチモンジ<タテハチョウ科>



前翅長 27~38 mm

- ふれあいの森
- 本州に分布し、黒地に鮮やかな一文字模様を持つタテハチョウの仲間。明るい樹林環境などで見られる。本州特産種で、イチモンジチョウに比べると分布は限られ、個体数も少ない。
- 5月~10月に出現し、食草はスイカズラなど。

ホシミスジ<タテハチョウ科>



前翅長 23~34 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 本州~九州に分布し、濃茶色地に三本の白い帯を持つやや小さめのタテハチョウ。近縁種のコミスジに似るが、1本目の帯が白色紋列になっていることで区別できる。はねを開いてとまることが多い。
- 5月~10月に出現し、食草はシモツケ、ユキヤナギ、コデマリなど。

コミスジ<タテハチョウ科>



前翅長 22~30 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 北海道~九州に分布し、濃茶色地に三本の白い帯を持つやや小さめのタテハチョウ。はねを開いてとまることが多い。林の周辺で見られ、滑空と小さなはばたきを繰り返す独特の飛び方をする。
- 4月~10月に出現し、食草はクズ、フジなどのマメ科植物。

キタテハ<タテハチョウ科>



前翅長 22~34 mm

- ふれあいの森、小牧山、市民四季の森、太良池
- 北海道~九州に分布し、黄色地に黒い紋があるタテハチョウ。初夏から真夏にかけて現れる夏型と秋に現れてそのまま越冬する秋型がある。活発に飛び回るが、地上に静止することも多い。花や腐果に集まる。
- 3月~11月に出現し、食草はカナムグラなど。

ヒオドシチョウ<タテハチョウ科>



前翅長 32~42 mm

- 小牧山
- 北海道~九州に分布し、鮮やかなオレンジ色に黒い紋があるタテハチョウ。雑木林を素早く飛び、樹液によく集まる。成虫で越冬するので、早春から飛びはじめ地面に羽根を広げとまる。
- 3月~6月、9月~11月に出現し、食草はエノキ。

ルリタテハ<タテハチョウ科>



前翅長 25~44 mm

- ふれあいの森、兒の森、小牧山、市民四季の森
- 北海道~沖縄に分布し、紺色地にルリ色のラインが特徴的なタテハチョウ。雑木林の周辺で見られ、地上に静止していることが多いが、人の気配を察するとあっという間に遠くまで飛んでいってしまう。樹液にもよく集まる。成虫で越冬するので、早春から飛びはじめる。
- 3月~4月、6月~11月に出現し、食草はサルトリイバラなど。

ヒメアカタテハ<タテハチョウ科>



前翅長 25~33 mm

- ふれあいの森、兒の森、小牧山
- 北海道~沖縄に分布し、朱色地に黒い紋のある、やや小型のタテハチョウ。素早く飛び、いろいろな花で吸蜜する。幼虫または成虫で越冬するが、寒さに弱いので温暖な地域でしか冬越しできない。
- 4月~11月に出現し、食草はヨモギ、ゴボウなど。

アカタテハ<タテハチョウ科>



前翅長 30~35 mm

- ふれあいの森、市民四季の森
- 北海道～沖縄に分布し、前翅は朱色と黒色、後翅は茶色のタテハチョウ。ヒメアカタテハに似るが本種の方が大きく、後翅が茶色いことで見分けられる。成虫で越冬するので、早春から飛びはじめる。
- 3月～11月に出現し、食草はカラムシ、ヤブマオなど。

コムラサキ<タテハチョウ科>



前翅長 30~42 mm

- ふれあいの森、市民四季の森、太良池
- 北海道～九州に分布し、茶色地に薄いオレンジの紋があるタテハチョウ。オスの羽根の表面は見る角度によって紫色に輝く。雑木林や河川敷で見られ、市街地でも発生していることがある。樹液や獣糞などによくやってくる。
- 5月～10月に出現し、食草はシダレヤナギ、コゴメヤナギなど、ヤナギ科の植物。

アカボシゴマダラ<タテハチョウ科>



前翅長 40~53 mm

- ふれあいの森、市民四季の森、小牧山
- 本州~九州に分布し、黒白のごまだら模様で、後翅に赤班列がある大きなタテハチョウ。もともとは奄美諸島のみで見られたものだが、近年、中国から持ち込まれたと思われる別亜種が関東や、東北・近畿の一部で繁殖し、分布域を広げている。春型は赤い斑紋のない白化型がある。
- 4月~10月に出現し、食草は小牧ではエノキ、奄美ではクワノハエノキを食べる。

ゴマダラチョウ<タテハチョウ科>



前翅長 35~50 mm

- ふれあいの森、市民四季の森、小牧山
- 北海道~九州に分布し、黒色地に白色の斑紋が散りばめられた翅をもつ大きなタテハチョウ。複眼は橙色で、口吻は黄色。雑木林の上空や周辺を、時々滑空しながら軽快に飛ぶ。クヌギ、コナラなどの樹液によく飛来し、オスは地表で吸水することもある。年2~3化し、幼虫で越冬する。
- 5月~9月に出現し、食草はエノキを食べる。

ヒメウラナミジャノメ<タテハチョウ科>



前翅長 18~24 mm

- ふれあいの森、兒の森
- 北海道~九州に分布し、草の上をフワフワと飛ぶ、目玉模様のある薄茶色のチョウ。はねの裏面には細かい波形のもようがある。後翅裏面の目玉模様は、左右各5つずつ。モンシロチョウより少し小さい。
- 4月~9月に出現し、食草はチジミザサ、ススキなど、イネ科植物各種。

ジャノメチョウ<タテハチョウ科>



前翅長 28~42 mm

- ふれあいの森、兒の森
- 北海道~九州に分布し、草原や林の周辺をフワフワと飛ぶ茶色い地味なチョウ。葉にとまったり花で吸蜜していることが多いが、落ち着きがなく人の気配に敏感で近づこうとするとすぐ飛び立ってしまう。
- 7月~9月に出現し、食草はススキ、コメススキ、ショウジョウソグなど。

クロヒカゲ<タテハチョウ科>



前翅長 23~33 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、雑木林の内部や山道沿いで見られる黒っぽい地味なチョウ。はねの形はスマートで、裏面に目玉模様を持つ。暗いところが好きで、日陰の地面にとまっていることや暗い林内を飛んでいることが多い。樹液にもよく来る。
- 5月~9月に出現し、食草はササ類など。

ヒカゲチョウ<タテハチョウ科>



前翅長 25~34 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、雑木林の縁の草藪や林内で見られる薄茶色の地味なチョウ。はねの形はスマートで、裏面に目玉模様を持つ。クロヒカゲに似るが、色がうすく、少しぼったりした雰囲気。人の気配に敏感で、草にとまっているのを見つけても、すぐ林の中に逃げ込んでしまうことが多い。
- 5月~9月に出現し、食草はタケ・ササ類など。

サトキマダラヒカゲ<タテハチョウ科>



前翅長 26~39 mm

- ふれあいの森、市民四季の森、小牧山
- 北海道~九州に分布し、樹木の周辺を活発に飛び回る茶色っぽい蝶。竹やぶやササ類のはえた林に極めて普通に見られ、樹液に良く集まる。
- 5月~9月に出現し、食草はタケ・ササ類など。

コジャノメ<タテハチョウ科>



前翅長 20~30 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、はねの裏面に白い帯と目玉模様を持つ、茶灰色の地味な蝶。雑木林の緑の草藪や林内で見られ、飛び方はゆるやかですぐに葉上などにとまる。腐果や獣糞など地面の汚物、樹液などに来る。ヒメジャノメに似るが、はねの地色が暗いこと、後翅裏面の大きな目玉模様の上に並ぶ小さな目玉模様の数が4つ（ヒメジャノメは3つ）である。
- 5月~9月に出現し、食草はアシボソ、チジミザサ、ススキなど。

ヒメジャノメ<タテハチョウ科>



前翅長 18~31 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、草原や林の周辺で見られる薄茶色の地味なチョウ。はねの裏面に白い帯と目玉模様を持つ。ふわふわと比較的ゆるやかに飛び、草の葉などによくとまる。コジャノメに似るが、はねの地色が明るく、後翅裏面の大きな目玉模様の上に並ぶ小さな目玉模様の数が3つ（コジャノメは4つ）である。
- 5月~10月に出現し、食草はススキ、イネ、チヂミザサ、カサスゲ、ヒメスゲなど。

クロコノマチョウ<タテハチョウ科>



前翅長 32~45 mm

- ふれあいの森、小牧山
- 本州~沖縄に分布し、はねの端が角張り、突起状になっているこげ茶色の大きなチョウ。はねの裏面は枯葉に似ていて、とまると見つけにくい。日中はうすぐらい雑木林の中においてあまり飛ばず、夕方になると林内や林縁を活発に飛び回る。クヌギなどの樹液や、果実に集まる。
- 3月~11月に出現し、食草はススキ、ジュズダマ、ヨシなど。

コウモリガ<コウモリガ科>



開長 45~120 mm

- 小牧山
- 北海道~九州に分布し、大型のコウモリガの一種。体色は褐色で前縁沿いと外横線は淡褐色。
- 8月~10月に出現、幼虫は若齢ではヤナギ科など食草の茎に穿孔し、生長すると広葉樹の幹に穿孔する。

ホソオビヒゲナガ<ヒゲナガガ科>



開長 14~17 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、濃褐色のはねに白黄色の細い帯があり、白く長い触角を持つヒゲナガガの仲間。
- 4月~7月に出現、食草は不明。

テングイラガ<イラガ科>



開長 12~18 mm

- ふれあいの森
- 北海道~沖縄に分布し、口吻が天狗の鼻のように上に曲がっているのが和名の由来。
- 6月~8月に出現、食草はバラ科、ツバキ科など。

キスジホソマダラ<マダラガ科>



開長 11~16 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、黒色で、はねに黄白色の条状の斑紋があるガ。オスの触角は櫛歯状。
- 6月~7月に出現、食草はササ、ススキなどのイネ類。

ホタルガ<マダラガ科>



開長 45~60 mm

- ふれあいの森
- 北海道~沖縄に分布し、黒地に1本の太い白帯が印象的なガ。頭部は赤く、触角が立派。昼間に活動し、林の周辺の薄暗いところをヒラヒラとゆっくり飛ぶ。はねの白帯は、飛んでいてもよく目立つ。
- 6月~7月、9月に出現し、食草はサカキ、ヒサカキ。

ヒメアトスカシバ<マダラガ科>



開長 21~29 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、黒色で腹部に黄色の帯がある。前翅は黒褐色で、後翅は透明。オオフタオビドロバチに擬態して身を守っていると思われる。
- 6月~9月に出現、幼虫はヘクソカズラの茎に穿孔し、虫こぶを形成する。

コスカシバ<マダラガ科>



開長 20~30 mm

- 小牧山
- 北海道~九州に分布し、黒色で、腹部に黄色の帯がある。翅は透明。蜂の仲間に擬態していると思われる。
- 6月~10月に出現、幼虫はサクラ、モモ、ウメ、リンゴなどの樹皮下に入って幹や枝の材を食べる。

チャハマキ<ハマキガ科>



開長 19~34 mm

- ふれあいの森
- 北海道~沖縄に分布し、ハマキガの仲間では最も普通に見られるものの一つで、羽の斑紋や色は変化に富んでいる。
- 3月~11月に出現し、食草はチャ、ツバキ、サザンカ、ネムノキなど。

ピロウドハマキ<ハマキガ科>



開長 40~59 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、黒色地に細かな黄白色の斑紋があり、翅端がオレンジ色の大きく美しいハマキガ。頭胸部にも はねと同じパターンのもようがあり、とまっているとどちらが頭でどちらがお尻なのかわからない。後翅には黄橙色地に黒色の斑紋がある。樹木のよく茂った林で見られ、日中に活動する。
- 6月~10月に出現し、幼虫はシイ、カシなど様々な広葉樹につく。

ウツギヒメハマキ<ハマキガ科>



開長 14~19 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、ヒメハマキの一種。黒地に黄白色の中帯が極めてよく目立つ。
- 5月~7月に出現、食草はウツギ類。

コウゾハマキモドキ<ハマキガ科>



開長 14~16 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、茶褐色~黄褐色のまだら模様があるハマキモドキガの仲間。
- 5月~10月に出現、食草はコウゾ、ツルコウゾ。

マドガ<マドガ科>



開長 14~19 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、黒地に白紋のある小さなガ。昼間に活動し、活発に飛び回って、いろいろな花で吸蜜する。
- 4月~9月に出現、食草はポタンヅル。

ヤママユ<マドガ科>



開長 115~150 mm

- ふれあいの森
- 北海道~沖縄に分布し、翅をひろげると 10cm をかるくこえる大きな蛾。黄褐色、灰褐色、赤褐色など、色彩には変異がある。4枚の翅には、それぞれ1つずつの目立つ紋と、黒色の細帯がある。
- 4月~9月に出現、食草はコナラ、クリ、カシなど。

オオミズアオ<マドガ科>



開長 80~120 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、翅をひろげると 10cm ぐらいもある青白色の大きなガ。
- 5月~8月に出現、食草はモミジ、ウメ、サクラなど。

シロオビノメイガ<ツトガ科>



開長 21~24 mm

- 小牧山
- 北海道~沖縄に分布し、濃褐色に白い帯の入った翅を持つ。
草原に極めて多い普通種で、人家周辺のちょっとした草むらでも見られる。
- 6月~11月に出現、幼虫はハウレンソウ、アカザなどを食べる。

モモノゴマダラノメイガ<ツトガ科>



開長 21~27 mm

- ふれあいの森
- 北海道~沖縄に分布し、淡黄色地に、たくさんの黒色の小斑紋が散りばめられた翅を持つ。胸部・腹部にも斑紋がある。
- 5月~9月に出現、幼虫は柑橘類、モモ、クリ、柿などを食べる。

オオスカシバ<スズメガ科>



開長 50~70 mm

- 市民四季の森、小牧山
- 本州~沖縄に分布し、うぐいす色の太い胴体を持ち翅を素早くはばたかせて直線的に飛ぶスズメガの仲間。腹部に赤褐色の帯があり、腹端には黒色の毛束をもち腹面は白い。日中に活発に活動し、ホバリングしながら花で吸蜜する。その形態と行動からハチに間違われる。羽化直後は翅に白い鱗粉があるが、翅を震わせるとすぐに脱落してしまう。
- 6月~9月に出現、食草はクチナシ。

ホシヒメハウジャク<スズメガ科>



開長 35~40 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、灰褐色地に黒褐色の紋があるスズメガの仲間。後翅には黄色い紋がある。翅が細く、突出した部分もあり、とまっていると枯葉のように見える。
- 6月~11月に出現、食草はヘクソカズラ。

ホシホウジャク<スズメガ科>



開長 40~50 mm

- 市民四季の森、小牧山
- 北海道~沖縄に分布し、茶色っぽく後翅の黄色が目立つスズメガの仲間。腹部には白い帯がある。昼間に飛び回りホウセンカなどの花で、ホバリングしながら長い口を伸ばして吸蜜する。胴体が太く、素早く羽ばたくのでハチのように見える。
- 7月~11月に出現、食草はヘクソカズラ、アカネなど。

セスジスズメ<スズメガ科>



開長 60~80 mm

- 三ツ瀨
- 北海道~沖縄に分布し、茶褐色で、翅に鮮やかな黒褐色の筋模様が入ったスズメガ。腹部の背中側中央に細い白線が2本ある。
- 5月~10月に出現、食草はサトイモ、サツマイモなど。

イカリモンガ<カギバガ科>



開長 35 mm

- ふれあいの森
- 北海道～九州に分布し、茶色でやや角張った形の翅を持つガ。前翅にはオレンジの紋がある。「日中に活動する」「はねをたたんでとまる」「触角が細い」などからチョウに間違えられる。
- 3月～10月に出現、食草はシダ類。

キンモンガ<カギバガ科>



開長 32～39 mm

- ふれあいの森
- 本州～九州に分布し、黒地に薄黄色の紋が目立つガ。紋が白っぽい個体もいる。昼間に活動し、翅を広げてとまっていることが多い。
- 6月～8月に出現、食草はリョウブなど。

ギンモンカギバ<カギバガ科>



開長 22~40 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、ベージュ色で、前翅の先端が尖り、前翅・後翅を貫く1本の褐色線と、前翅に1対の褐色紋を持つカギバガの仲間。斑紋や翅脈にそって銀粉を装う。紋を消失するタイプもある。
- 4月~9月に出現、食草はヌルデ、ヤマウルシなど。

ヤマトカギバ<カギバガ科>



開長 25~37 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、淡いベージュ色で前翅の先端が尖り、前翅・後翅を貫く2本の褐色線を持つカギバガの仲間。
- 4月~9月に出現、食草はコナラ、アベマキ、クリなど。

ウコンカギバ<カギバガ科>



開長 30~45 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、黄色っぽく、前翅は先端が尖り外縁の中央部に黒紋があるカギバガの仲間。ぼやけた褐色斑紋があり、灯火に飛んでくる。
- 5月~10月に出現、食草はスダジイなどブナ科。

ウスギヌカギバ<カギバガ科>



開長 25~40 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、前翅前縁後方付近から後翅の後縁後方にかけて黄土色の帯模様があり、更に後翅後縁沿いも黄土色になることで、体色と同化して三又状の模様を描いている。
- 4月~10月に出現、幼虫はコナラ、アラカシの葉を食べる。

ギンツバメ<カギバガ科>



開長 25~29 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、翅を広げてとまった時、たくさんの灰褐色の筋模様が前翅の両端をつないで見える奇妙なデザインのガ。林縁部などの薄暗い場所で、翅を広げてとまっていることが多い。
- 5月~10月に出現、食草はガガイモなどガガイモ科。

ツマジロエダシャク<シャクガ科>



開長 33~40 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、淡褐色で翅が角ばり前翅先端に白紋があるシャクガ。前翅と後翅を離してとまっていることが多い。
- 4月~5月、9月~11月に出現、幼虫はクスノキを食べる。

フタテンオエダシャク<シャクガ科>



開長 25~27 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、淡褐色地に、2本の明瞭な褐色線を持つシャクガ。4枚の翅の褐色線はきれいにつながって見える。
- 5月~9月に出現、幼虫はネムノキを食べる。

ヒロオビトンボエダシャク<シャクガ科>



開長 48~58 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、体が細く、翅は黑白まだらのシャクガ。
- 6月~7月に出現、食草はツルウメモドキ。

ヒョウモンエダシャク<シャクガ科>



開長 41~50 mm

- ふれあいの森、兒の森
- 北海道~九州に分布し、白地に黒色紋が散りばめられた翅を持つ よく目立つシャクガ。後翅の外側半分はオレンジ色。都市近郊でもよく見られ、太い樹木の幹にとまっていることが多い。
- 6月~9月に出現、幼虫はアセビを食べる。

シロツバメエダシャク<シャクガ科>



開長 35~54 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、白地に控えめな柔らかな直線模様がある上品な感じの蛾である。
- 6月~10月に出現、食草はイヌガヤ、イチイなどである。

ニトベエダシャク<シャクガ科>



開長 29~36 mm

- 小牧山
- 本州~九州に分布し、秋に出現するエダシャクの種類。
- 10月~12月に出現、幼虫はバラ科、ブナ科、カバノキ科、クワ科、ツツジ科、ニレ科、スイカズラ科、モクセイ科など多くの広葉樹の葉を食べる。

フトフタオビエダシャク<シャクガ科>



開長 27~42 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し色彩変異が多く、淡いものから暗色のものまで見られる。
- 3月~10月に出現、幼虫は多くの広葉樹の葉を食べる。

ウチムラサキヒメエダシャク<シャクガ科>



開長 15~19 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布、黄色い地色に灰色から黒紫色の斑紋がある小型のエダシャク。
- 5月~8月に出現、食草はエノキ。

ナカキエダシャク<シャクガ科>



開長 22~36 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、残像のような褐色の斑紋が特徴的なエダシャク。後翅は淡黄色~白色で、後角部付近は黒色。オスの触角は櫛歯状、メスでは糸状。
- 4月~6月に出現、食草はコナラなどブナ科。

ウラボニエダシヤク<シヤクガ科>



開長 19~26 mm

- ふれあいの森
- 北海道~沖縄に分布し、黄色っぽく、外側3分の1が濃褐色にくすんだ翅を持つシヤクガ。
- 4月~9月に出現、食草はスイカズラ。

マルハグルマエダシヤク<シヤクガ科>



開長 21~25 mm

- ふれあいの森
- 北海道~本州に分布し、翅は淡黄白色で褐色の横線と黒点を持つエダシヤク。
- 6月~9月に出現、食草はイヌツゲ、アオハダなど。

ウスキヒメアオシャク<シャクガ科>



開長 15~21 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布、小型アオシャクの種類。翅は青緑色で、内・外横線は強く波打つ。外縁の翅脈上に小白紋がある。日本固有種。
- 4月~9月に出現、幼虫は多くの広葉樹の葉を食べる。

ヒメツバメアオシャク<シャクガ科>



開長 26~30 mm

- ふれあいの森
- 本州~沖縄に分布、翅は青緑色で、ギザギザしたやや不明瞭な2本の白線がある。後翅の外縁中央付近にある尾状突起は大きく突出する。
- 6月~9月に出現、食草はコナラ、アラカシ、シラカシなど。

ウンモンオオシロヒメシャク<シャクガ科>



開長 23~29 mm

- 小牧山
- 北海道~九州に分布。灰白色地に、うすい茶褐色~灰褐色の模様があるシャクガ。前翅には不明瞭な眼状紋がある。
- 5月~9月に出現、食草はスイカズラ。

マルモンシロナミシャク<シャクガ科>



開長 30~37 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、白地に明瞭な黒斑模様があるシャクガ。個体による斑紋の変異が大きい。
- 6月~7月に出現、食草はイワガラミ、ノリウツギなど。

ナミガタシロナミシャク<シャクガ科>



開長 33~45 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、白っぽくて、前翅には数本ずつまとまった黒線模様があり、後翅の外縁がオレンジ色の美しいシャクガ。
- 6月~7月に出現、食草はツタ類。

セスジナミシャク<シャクガ科>



開長 20~28 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、黒褐色地に、白色線が網目状に走る翅を持つシャクガ。前翅には茶色い不定形の紋がある。
- 4月~7月、9月~10月に出現、食草はアケビ科。

ヨツボシホソバ<シャクガ科>



開長 45 mm

- ふれあいの森
- 北海道～九州に分布し、ホソバガの仲間。メスは、一面黄色で前翅に各2つの黒紋を持つ。
- 6月～9月に出現、食草は地衣類。

ナミスジナミフユシャク<シャクガ科>



開長 22～37 mm

- 小牧山
- 北海道～九州に分布し、晩秋から真冬にかけて見られるシャクガ。雄の前翅は灰褐色～暗褐色で、前翅には波状の帯がある。雌は翅が1～6ミリ程度に退化。平地から山地まで広く見られる。
- 11月～1月に出現、幼虫はカバノキ科、ブナ科、バラ科など多くの広葉樹の葉を食べる。

キマエホソバ<ヒトリガ科>



開長 25~30 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布、灰褐色で、前翅前縁に淡黄色線があるホソバガの仲間。
- 5月~9月に出現、食草は地衣類。

マエグロホソガ<ヒトリガ科>



開長 35~40 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布するホソバガの仲間。オスの前翅は、周縁が黄色、中ほどは白っぽく前縁が黒くなっている。メスは、一面黄色で前翅に各2つの黒紋を持つ。
- 6月~9月に出現、食草は地衣類。

オオベニヘリコケガ<ヒトリガ科>



開長 23~31 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、色彩が美しいコケガの一種。前翅の地色は黄色で、赤い縁取りがあり、翅脈上が黒色。
- 6月~9月に出現、食草は地衣類。

ゴマダラベニコケガ<ヒトリガ科>



開長 25~30 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、オレンジ色で、はねに朱色と黒色の斑紋模様がある美しいコケガの仲間。
- 5月~9月に出現、食草は地衣類。

スジベニコケガ<ヒトリガ科>



開長 32~40 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、オレンジ地に、朱色の細かい筋模様を持つコケガの仲間。はねには、濃褐色のV字線が入っている。
- 5月~9月に出現、幼虫は地衣類や落葉を食べる。

ヒメホシキコケガ<ヒトリガ科>



開長 20~25 mm

- ふれあいの森
- 本州~沖縄に分布、淡黄色で、暗褐色の小さな斑紋があるコケガの仲間。
- 6月~9月に出現、食草は地衣類。

シロヒトリ<ヒトリガ科>



開長 52~66 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、真っ白の大きなヒトリガ。脚と腹部側面は赤い。
- 7月~9月に出現、食草はスイバ、ギシギシ、イタドリ、タンポポなど。

カノコガ<ヒトリガ科>



開長 30~37 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、黒地に白い紋が散りばめられた細めのはねを持つが。白紋の部分は半透明。昼間に活動し、いろいろな花で吸蜜する。
- 6月~9月に出現、食草はシロツメクサ、スギナ、ギシギシ、タンポポなど

モンクロシャチホコ<シャチホコガ科>



開長 46~59 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、ベージュがかった白色で、前翅の基部と外縁部に暗青色・暗赤色・黒色からなる紋を持つシャチホコガ。はねを屋根型にしてとまることが多い。
- 7月~8月に出現、食草はサクラ類。

ゴマフリドクガ<ドクガ科>



開長 20~33 mm

- ふれあいの森
- 本州~沖縄に分布し、黄色地に赤褐色~暗褐色の小さな斑紋がたくさんあるドクガの仲間。
- 5月~8月に出現、食草はヒサカキ、サクラ、バラ、ハリエンジュなど。

タイワンキシタアツバ<ヤガ科>



開長 28~35 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、灰褐色で前翅に三角形の黒褐色紋があるアツバガの仲間。下唇鬚が長く、頭が尖ったように見える。後翅と腹部背面は黄色。
- 5月~9月に出現、食草はヤブマオ。

ナミテンアツバ<ヤガ科>



開長 28~30 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、淡茶褐色で、前翅に直線状の帯をもつ。メスの帯は黒褐色で太く、オスの帯は淡褐色で細く目立たない。色彩や斑紋には個体変異がある。下唇鬚が突出し、ちぎれた枯葉のようにも見える。
- 3月~4月、7月~11月に出現、食草はヌスビトハギ。

ハグルマトモエ<ヤガ科>



開長 55~75 mm

- ふれあいの森
- 本州~沖縄に分布し、淡褐色地に濃褐色線が複雑に入った翅を持つガ。前翅には巴型の大きな黒紋がある。
- 4月~9月に出現、食草はネムノキ。

オオトモエ<ヤガ科>



開長 90~100 mm

- 兒の森、ふれあいの森
- 北海道~沖縄に分布し、濃褐色地に白線が入った翅を持つ大型のガ。
- 5月~8月に出現、食草はサルトリイバラ。

オスグロトモエ<ヤガ科>



開長 57~72 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、前翅に巴型の大きな紋がある。夏型の雄は濃褐色、雌は淡褐色で黒褐色の縞模様がある。ハグルマトモエに似るが巴型紋が小さい。
- 5月~9月に出現、食草はネムノキ、アカシアなど。

シロスジトモエ<ヤガ科>



開長 55~63 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、濃褐色地に鮮やかな1本の白帯が入り、前翅に大きな眼状紋を持ったガ。
- 5月~8月に出現、食草はサルトリイバラ。

オオウンモンクチバ<ヤガ科>



開長 45~50 mm

- ふれあいの森
- 北海道~沖縄に分布し、茶色地に、縦筋が入った翅を持つガ。屋根型に翅をとじてとまることが多い。暖かい地方でよく見られる。
- 5月~6月、8月~9月に出現、食草はヌスビトハギ、フジ、クズなど。

ニセウンモンクチバ<ヤガ科>



開長 32~46 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布。ウンモンクチバに似るが、本種は後翅外縁近くが灰黄色を帯び、やや小型である。
- 4月~8月に出現、食草はヌスビトハギ。

トビイロトラガ<ヤガ科>



開長 44~46 mm

- 小牧山
- 本州~九州に分布。前翅は茶褐色で部分的に青味があり、淡褐色の複雑な筋模様がある。胸部や脚には淡褐色の毛が密生する。静止していると、クモの巣にかかって死んだ蛾のようにも見える。
- 4月~8月に出現、食草はブドウ、ノブドウ、ヤブカラシ、ツタ。

シロスジカラスヨトウ<ヤガ科>



開長 51~57 mm

- ふれあいの森
- 本州~九州に分布し、黒色地に鮮やかな2本の白色線がはいった前翅を持つ美しいカラスヨトウの仲間。後翅は灰褐色。
- 7月~9月に出現、食草はアラカシ、サカキなど。

キスジツマキリヨトウ<ヤガ科>



開長 23~26 mm

- 小牧山
- 本州~九州に分布し、茶褐色地に2本の湾曲した細い白帯が入ったはねを持つ。前翅の中央部には小さな白点がある。
- 6月~8月に出現、食草は各種シダ類。

シロヘリキリガ<ヤガ科>



開長 34~39 mm

- 兒の森
- 北海道~九州に分布。春に出現するキリガの一種。和名の通り、前翅の後縁が太く白色。
- 3月~5月に出現、食草はバラ科。

ヘーネアオハガタヨトウ<ヤガ科>



開長 27 mm

- 兒の森
- 本州～九州に分布。晩秋に出現するキリガの一種。晩秋に出現し越冬しないが冬場も見られることがある。
- 3月～5月に出現、食草はカン類の新芽。

アオイラガ幼虫<イラガ科>



体長 25 mm前後

- 小牧山
- 本州～九州に分布し、緑色で、背面に鮮やかな青い帯がある。細かな棘がはえた突起が並び、身体の前方には先端が黒い棘がはえた突起が1対ある。全身に毒棘と毒針毛をそなえ、触れると痺れたように痛む。
- 6月～9月に出現、食草はケヤキ、モミジバフウなど。

ヒメクロイラガ幼虫<イラガ科>



体長 23 mm前後

- 小牧山
- 本州～九州に分布し、淡黄色で、黒色～暗褐色の細かな斑紋があり、うす汚れたように見える。各節の突起には毒棘が生え、触れると痺れたように痛む。庭木や公園、街路樹などで見られ、集団で見つかることも多い。
- 7月～10月に出現、食草はケヤキ、モミジバフウなど。

ホタルガ幼虫<マダラガ科>



体長 25 mm前後

- 小牧山
- 黄色で、背面には灰色の帯が、側面には黒色の太い帯があり、よく目立つ。危険を察すると体表から毒のある粘液を出し、それが皮膚につくと痒くなる。庭木や公園、神社、雑木林などで見られる。葉の上にいることが多い。
- 6月～8月 10月～6月に出現し、食草はサカキ、ヒサカキ。

ヤママユ幼虫<マドガ科>



体長 65 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道～沖縄に分布し、大型のイモムシで淡黄色の横線模様はお尻の方で褐色模様繋がります。よく見れば、少しきらめく白い銀紋が2つ並んでいます。ヤママユは古くから飼育され、その繭を「天蚕（てんさん）」と呼びます。
- 4月～6月に出現、食草はコナラ、クリ、カシなど。

モモスズメ幼虫<スズメガ科>



体長 75 mm前後

- 小牧山
- 北海道～九州に分布し、幼虫は顆粒の入った三角頭が特徴的で、緑色のタイプと黄色くなるタイプがあります。
- 6月～10月に出現、食草はモモ、サクラなど。

シモフリスズメ幼虫<スズメガ科>



体長 90 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道～沖縄に分布し、体側に7本の白い斜条があり、胸部背面には白い小さな突起が並んでいる。よく育った幼虫は、まるでゴムでできたおもちゃのようにも見える。
- 6月～11月に出現、食草はネズミモチ、イボタノキなど。

キイロスズメ幼虫<スズメガ科>



体長 80 mm前後

- ふれあいの森
- 本州～沖縄に分布し、危険を察すると、頭部を体の中に埋めて縮こまる。
- 6月～10月に出現、食草はヤマノイモ、オニドコロなど。

キイロスズメ幼虫<スズメガ科>



体長 80 mm前後

- ふれあいの森
- 本州～沖縄に分布し、危険を察すると、頭部を体の中に埋めて縮こまる。
- 6月～10月に出現、食草はヤマノイモ、オニドコロなど。

オオスカシバ幼虫<スズメガ科>



体長 60 mm前後

- 小牧山
- 本州～沖縄に分布し、体に細かい横しわがある。前胸の背面には、黄色～白色の顆粒が冠のように並んでいる。
- 5月～10月に出現、食草はクチナシ。

コスズメ幼虫<スズメガ科>



体長 75 mm前後

- 小牧山
- 北海道～沖縄に分布し、体側に2対の眼状紋をもち、尾角はS字型に波打つ。幼虫は緑色のタイプと茶褐色のタイプがある。
- 5月～9月に出現、食草はオオマツヨイグサ、ヤブガラシなど。

フクラスズメ幼虫<スズメガ科>



体長 65 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道～沖縄に分布し、薄い黄色の体で気門の周りに赤い紋が並び、体側に沿って黒い帯が走る。背面には黒く細い横じまが並び、毛はまばらで毒はない。驚かすと上体を持ち上げて激しく振るわせ、しまいには口から緑の液を吐く。
- 3月～4月、7月～8月、10月～11月に出現、食草はイラクサ。

ドクガ幼虫<ドクガ科>



体長 40 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道～九州に分布し、黒色とオレンジ色に塗り分けられている。オレンジ色の部分の広さは地域によって異なる。
- 9月～6月に出現、幼虫は多くの広葉樹の葉を食べる。

モンシロドクガ幼虫<ドクガ科>



体長 25 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道～九州に分布し、黒色地に、黄色～オレンジ色の帯と白色の紋がある。色彩変異があり、黄色地に黒斑が連なる個体もいる。毒針毛をもち、刺さると痛みと痒みがあり、皮膚炎を起こすこともある。
- 6月～7月、10月～5月に出現、食草はバラ科、ブナ科など。

ヒメシロモンドクガ幼虫<ドクガ科>



体長 30~40 mm

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、成虫の体色は淡褐色から黒褐色。背面に黒色の広い帯状筋がある。
- 7月~9月、11月~5月に出現、リンゴ、ナシ、スモモ、ウメ、サクラ、クワ、クヌギ、プラタナスなど様々な植物の葉を食べる。

ハスオビエダシャク幼虫<シャクガ科>



体長 60 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道~九州に分布し、幼虫は複雑な斑紋がある。個体差もあるが頭部の周囲が黒色で、腹部末端の背面に1対の赤い棘があるのが特徴。
- 4月~5月に出現、幼虫は多くの広葉樹の葉を食べる。

ヒロオビトンボエダシャク幼虫<シャクガ科>



体長 40 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道～九州に分布し、幼虫は白みがかった黄色の体に不規則な黒い点と側面に黒い帯がある。
- 4月～5月に出現、幼虫はツルウメモドキを食べる。

ナカウスエダシャク幼虫<シャクガ科>



体長 30 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道～九州に分布し、枯れ木の枝のような地味な幼虫。
- 5月～8月、10月～4月に出現、幼虫は多くの広葉樹の葉を食べる。

トビモンオオエダシャク幼虫<シャクガ科>



体長 80 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道～沖縄に分布し、灰白色～暗褐色の長大なイモムシ。頭部は左右の頭頂が角状に突出しV字型になっている。胴部は顆粒に覆われる。体を伸ばして静止していると小枝のようで見つけにくい。春から出現し、非常にゆっくりと育つ。
- 4月～9月に出現、食草はブナ科、バラ科など。

シンジュキノカワガ幼虫<コブガ科>



体長 70 mm前後

- 太良池
- 中国大陸の原産、日本では北海道～九州まで分布するが非常にまれな種類である。ごく限られた場所に発生するが、その後は採集されない場合が多い。
- 7月～11月に出現、食草はニワウルシ（別名シンジュ）。

ナンキンキノカワガ幼虫<コブガ科>



体長 35 mm前後

- 小牧山
- 本州～九州まで分布
- 6月～10月に出現、食草はナンキンハゼ。

ヒメエグリバ幼虫<ヤガ科>



体長 37 mm前後

- ふれあいの森
- 本州～沖縄に分布し、夜空に浮かぶイルミネーションのようなカラフルな配色のイモムシ。
- 1年中に出現、食草はアオツツラフジ。

タケカレハ幼虫<ヤガ科>



体長 65 mm前後

- ふれあいの森
- 北海道～九州に分布し、黄褐色で、背部に茶褐色～暗褐色の斑紋列がある。全体に青味を帯びた個体もいる。胸部と腹端付近に長い黒色の毛束がある。毒針毛をもち、繭にも毒針毛が付着している。
- 1年中に出現、食草はササ類、タケ類など。

トビイロトラガ幼虫<ヤガ科>



体長 40 mm前後

- ふれあいの森
- 本州～九州に分布し、白い長めの毛が少し生えており、黒色の地色に白色の細い模様、頭部と側面は黒点を伴ったオレンジ色をした綺麗な色彩をしている。
- 5月～9月に出現、食草はブドウ、ノブドウ、ヤブカラシ、ツタ。

ヒロバモクメキリガ幼虫<ヤガ科>



体長 35 mm前後

- ふれあいの森
- 本州～九州に分布し、この幼虫は終齢に達しないもの。胸背にある白黒一対の目玉模様が本種の特徴。
- 4月～6月に出現、食草はサカキ、アラカシなど。

おわりに

自然観察の好きな同好の士が作った図鑑のため、記載事項に不備があるかもしれませんが、この図鑑がきっかけになり小牧市内の蝶や蛾について興味・関心を持っていただき、自然環境に触れる機会が増えることを願っています。

この図鑑をご覧になり小牧市自然環境観察人の活動に関心を持たれた方は、小牧市のホームページの「小牧市自然環境観察人について」をご覧いただきたいと思います。小牧市自然環境観察人は随時募集していますので、下記の環境対策課まで申し込み願います。

- 編集 小牧市自然環境観察人
- 発行 小牧市 市民生活部 環境対策課
小牧市堀の内三丁目1番地
0568-76-1136